

まちなか生活実態調査の調査結果について

平成24年11月28日
とっとり暮らし支援課

まちなかにおける人口減少・高齢化の進行に伴うコミュニティ活動の停滞、災害時対応への不安、空き家の増加、買い物弱者の発生などの実態把握と支援施策の検討を目的として実施した標記調査について、その結果の概要を報告します。

1. 世帯調査 (2,007/4,575 世帯、回答率 43.9%)

一般世帯、独居高齢者世帯、マンション世帯の3つの切り口で、まちなか居住者が抱える生活上の問題や課題について調査を行ったもの。

<ポイント>

- ①7割強が自治会に加入。マンション世帯は4割弱。
- ②遠くの身内より近所の他人が頼り。
- ③「立ち話や情報交換」「挨拶程度」のコミュニティ。
- ④マンション世帯でも住民同士の交流を望む傾向。ただ、必要ないとの声も少なくない。
- ⑤惣菜・弁当の購入や外食は少ない。
- ⑥公共交通より車に依存。独居高齢者の行動範囲は主に徒歩圏内。
- ⑦買い物は近所のスーパーが中心。全体的に配送や移動販売の利用意向は低い。
- ⑧居住環境については概ね満足。
- ⑨親の住居への住み替え需要は低い。

(1) コミュニティ

- 7割強の世帯が自治会(町内会)に加入。(一般世帯、独居高齢者世帯はほぼ同じ傾向)ただ、マンション世帯を見ると加入率は4割弱にとどまる。
- 日常の近所付き合いは、一般世帯、独居高齢者世帯ともに、「立ち話や情報交換」、「挨拶程度」が多い。一般世帯には近所付き合いが「ほとんどない」と答えた人が一定数存在。
- 独居高齢者世帯に対する「声かけ」の頻度は、「毎日(又はほぼ毎日)」が最も多く、次いで「月2~3日程度」。主な相手は「近所の方」が最も多く、次いで「別居の親族」「民生委員」が同じ割合。
- 独居高齢者の将来への不安は、健康上の不安、災害への不安が多く、人間関係などの不安は少ない。
- マンション世帯の意識として、マンション内での付き合い、マンション外近隣住民との付き合いとも「多少あった方がよい」が最も多い。ただ、「必要ない」という回答も少なくない。

(2) 居住環境(買い物、交通、居住地評価等)

- 昼食・夕食の準備については、いずれも、「家で作る」という回答が8割~9割近くを占める。若干、夕食の方が惣菜・弁当の購入や外食が少ない。
- 日常の買い物先は、「近所のスーパー」が77%と最も多い。「大規模店」は14%を占めた。
- 買い物に使う主な交通手段は、一般世帯の場合「車(自分で運転)」が最も多く、次いで「徒歩」「自転車」の順。独居高齢者世帯は「徒歩」が最も多く、次いで「自転車」「車(自分で運転)」の順。
- 配送(又は移動販売)サービスの利用意向については、いずれも「使わない」という回答が最も多く、次いで「あればたまに利用する」の順。全体的には積極的な利用意向とは言えない。
- 現住地に対する評価は、一般世帯と独居高齢者世帯ともに、買い物、医療、交通の利便性を選んでおり、これらが居住地としてのまちなかの特徴と考えられる。
一般世帯のうち比較的若い世帯主の世帯では、買い物の利便性に加え、職場や駅への近接性が評価されている。
- 居住環境として優先する条件では、一般世帯、独居高齢者世帯ともに、買い物、医療、交通の利便性が重視されている。
一般世帯のうち比較的若い世代主の世帯では、買い物、交通の利便性に加え、職場(郊外駅を含む)への近接性や教育環境などが重視されている。
独居高齢者世帯は良好な人間関係も重視している。
- 今後の居住意向では、「住み続けたい」という意向が、一般世帯、独居高齢者世帯ともに多い。
将来的な転居意向をお持ちの方の転居先は、半数近くが「親が住んでいる(住んでいた)住居ではない」との回答。

2. 自治会（町内会）調査（209／277 自治会（町内会）、回答率 75.5%）

居住者の声とは別に、自治会（町内会）の視点で、地域が抱える生活上の問題や課題について調査を行ったもの。

<ポイント>

- ①小規模自治会（町内会）（50 世帯未満）が多い。
 - ②自治会（町内会）ではマンション世帯との交流を望む傾向がある。
 - ③多くの地域で空き家が存在し、新たな住民の入居への期待が高い。
- ※地域の困りごと・将来への不安として
- ④高齢化に伴う地域コミュニティの衰退を危惧する声強い。
 - ⑤ゴミ集積におけるトラブルについての意見多数。

（1）コミュニティ

- 比較的小規模な自治会（町内会）が多い。
- 自治会（町内会）総会に加入者の「8割以上」が参加する自治会（町内会）は約3割。4割強の自治会（町内会）は加入者の総会への参加が「半数未満」。
- 自治会（町内会）の加入世帯、人数などについて適正と感じている自治会（町内会）長が多い。
- 地震等大規模災害への対応については、現在対策をとっている自治会（町内会）と、話し合いを進めている、将来に話し合いを予定している自治会（町内会）が約6割。
- 伝統芸能、祭など固有の文化的遺産が「元々ない」自治会（町内会）が半数以上。
- マンション世帯の自治会（町内会）加入状況については、「加入していない」が最も多く、次いで「入居者が任意に加入している」場合が多い。
- マンションでは、「管理人（又は管理会社）」が自治会（町内会）との連絡窓口になるケースが最も多い
- 地域から見たマンション世帯との交流のあり方については、「多少あった方がよい」「大いにあった方がよい」との意見が8割近くある。

（2）居住環境（交通、買い物、医療、空き家等）

- 交通・買い物・通院等に関する、自治会（町内会）内での話し合いについては、「ない」と答えた自治会（町内会）が8割強。
- 空き家が「ある」と答えた自治会（町内会）は9割弱。ある程度、所有者や空き家になった理由などが把握されている。
- 空き家に対する評価 空き家の価値については「分からない」とする回答が多く、次に「価値がない」との回答。
- 空き家を建物として活用できる場合の活用方法としては、「新たな住民の入居」への期待が高く、次いで「地域の方々の交流の場」への期待が高い。
解体して土地を再利用できる場合の活用方法としては、「特に考えていない」が最も多く、次いで「隣家への売却」、「駐車場」が多い。

【調査の概要】

(1) 調査の目的

都市部における局地的な人口減少・高齢化の進行、コミュニティ活動の停滞、災害時対応への不安、空き家の増加、買い物弱者の発生、交通不便等の課題の実態を把握し、地域住民が安心して元気に暮らせる「まちなか」の再生を目指して、生活者の視点で、コミュニティを軸に支援施策を検討するための基礎資料とする。

(2) 調査対象

鳥取県内の都市部で、鳥取県みんなで取り組む中山間地域振興条例に規定する中山間地域を除いて指定した14地区から抽出した4,710世帯及び全277自治会（町内会）

- ・鳥取市：きゅうしょう久松、じゅんぷう醇風、せんきょう遷喬、にっしん日進、めいとく明德、なかのごう中ノ郷、すえつね末恒
- ・米子市：中心市街地活性化基本計画区域（けいじょう啓成・めいどう明道・しゅうしょう就将・ぎほう義方の各地区の一部）
- ・倉吉市：せいとく成徳、めいりん明倫
- ・境港市：さかい境

(3) 調査内容

ア. 世帯調査

世帯の状況、住まい、くらしの安心、交通、買い物、通院、コミュニティ、居住に関する今後の意向、困りごと、不安その他に関する事項

イ. 自治会（町内会）調査

自治会（町内会）の状況、くらしの安心、生活環境（交通、店舗、医療）、コミュニティ、困りごと、不安その他に関する事項

(4) 調査方法

ア. 世帯調査

以下により抽出した世帯に対し、調査票を郵送又は配布して実施した。

（独居高齢者世帯については、民生委員のご協力のもと、聞き取り調査を行った。）

なお、調査票の提出は無記名とした。

※抽出方法

- ①独居高齢者世帯については、地区当たり15世帯程度、計210世帯を選定
- ②マンション世帯については、地区当たり100世帯程度、棟当たり25世帯程度を基本とし、以下の手順で計1,000世帯を選定
 - ・各地区の中で入居世帯数の多いもの2棟（50世帯）を調査棟に割り当て（地区内でこれを満たさない場合、50世帯に達するまで各棟毎に調査世帯数を割り当てる。相応しい物件がない場合は調査を行わない。）
 - ・残りの世帯については、各市域の調査地区全体の中で入居世帯数の多いものから順に必要な棟数※を割り当て
 - ※（100世帯－50世帯）×地区数）÷25世帯
- ③ ①②を除いた世帯について、地区当たり250世帯程度、計3,500世帯を住民基本台帳から抽出

イ. 自治会（町内会）調査

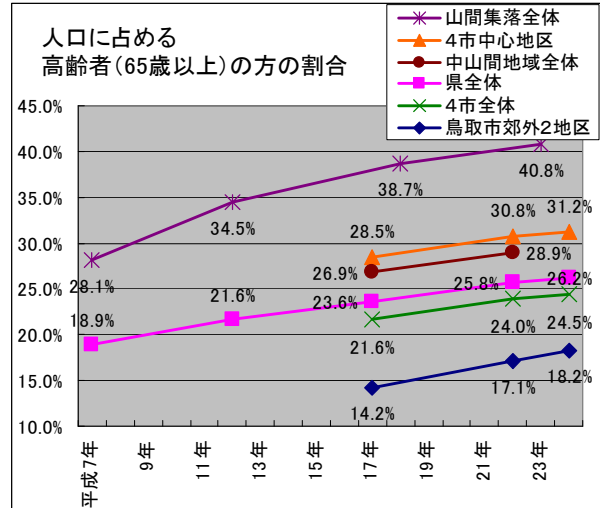
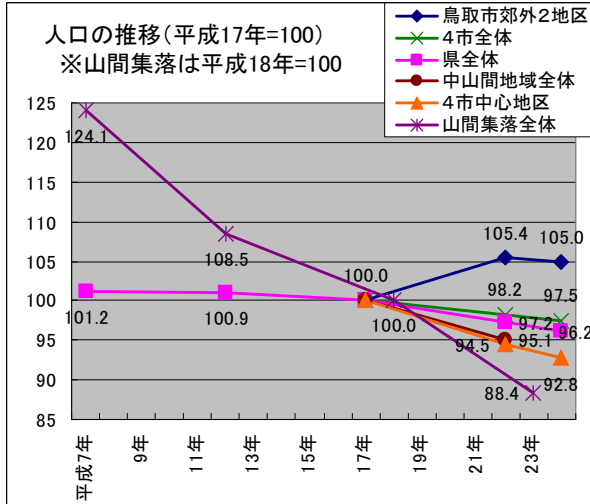
自治会（町内会）の代表者に対し、調査票を配布して実施した。

(5) 調査基準日

平成24年8月1日（水）

【調査地区の概況】（人口推移、高齢化の状況）

県全体で見ると、人口減少がゆるやかに進んでいる。
 4市の中心地区においても、人口減少が進んでいることがわかる。
 郊外地区では、人口増もみられるものの、今後の人口減少を踏まえれば、その時期は長くないとみられる。



注) 住民基本台帳登録人口(境港市境地区のみ高齢者実態調査)を基に作成。
 「山間集落全体」は山間集落実態調査、「中山間地域全体」は国勢調査による。
 「4市中心地区」は、本調査地区から鳥取市中ノ郷地区及び末恒地区を除いたもの。
 うち米子市中心地区は、中心市街地活性化基本計画区域内のみ。
 「鳥取市郊外2地区」は、鳥取市中ノ郷地区及び末恒地区。うち中ノ郷地区は、平成17年は山城町を除く。

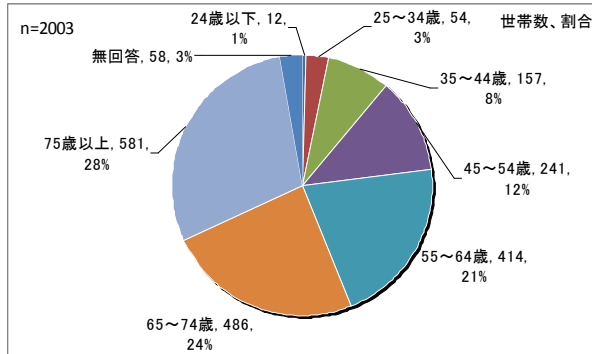
区分	平成17年		平成22年		平成24年		備考		
	人口	割合	人口	割合	人口	割合			
人口 (単位:人)	調査地区	58,442	100.0%	56,201	96.2%	55,285	94.6%	・住民基本台帳による。	
	うち4市中心地区	49,700	100.0%	46,988	94.5%	46,106	92.6%		
	うち鳥取市郊外2地区	8,742	100.0%	9,213	105.4%	9,179	103.9%		
	4市全体	439,633	100.0%	431,546	98.2%	428,572	97.5%		
	山間集落全体	8,870	100.0%	7,844	88.4%				・山間集落実態調査(平成18年、23年実施)による。
	中山間地域全体	292,443	100.0%	278,080	95.1%				・国勢調査による。
	県全体	612,191	100.0%	595,331	97.2%	588,715	96.2%		
	調査地区	25,152	100.0%	25,310	100.6%	25,332	100.7%		・住民基本台帳による。
世帯数(総数) (単位:世帯)	調査地区	25,152	100.0%	25,310	100.6%	25,332	100.7%	・住民基本台帳による。	
	うち4市中心地区	22,134	100.0%	21,831	98.7%	21,832	98.7%		
	うち鳥取市郊外2地区	3,018	100.0%	3,479	115.3%	3,500	116.0%		
	4市全体	165,945	100.0%	172,756	104.1%	174,911	105.4%		
	山間集落全体	2,736	100.0%	2,654	97.0%				・山間集落実態調査(平成18年、23年実施)による。
	中山間地域全体	91,298	100.0%	90,701	99.3%				・国勢調査による。
	県全体	218,520	100.0%	226,434	103.6%	228,484	104.5%		
	高齢化率	調査地区	26.3%	100.0%	28.6%	108.8%	29.1%		110.6%
うち4市中心地区		28.5%	108.0%	30.8%	108.1%	31.2%	109.5%		
うち鳥取市郊外2地区		14.2%	100.0%	17.1%	120.4%	18.2%	128.1%		
4市全体		21.6%	100.0%	24.0%	110.6%	24.5%	113.0%		
山間集落全体		38.7%	100.0%	40.8%	105.4%			・山間集落実態調査(平成18年、23年実施)による。	
中山間地域全体		26.9%	100.0%	28.9%	107.4%			・国勢調査による。	
県全体		23.6%	100.0%	25.8%	110.0%	26.2%	110.6%		
調査地区		26.3%	100.0%	28.6%	108.8%	29.1%	110.6%	・住民基本台帳による。	
うち4市中心地区	28.5%	108.0%	30.8%	108.1%	31.2%	109.5%			
うち鳥取市郊外2地区	14.2%	100.0%	17.1%	120.4%	18.2%	128.1%			
4市全体	21.6%	100.0%	24.0%	110.6%	24.5%	113.0%			
山間集落全体	38.7%	100.0%	40.8%	105.4%			・山間集落実態調査(平成18年、23年実施)による。		
中山間地域全体	26.9%	100.0%	28.9%	107.4%			・国勢調査による。		
県全体	23.6%	100.0%	25.8%	110.0%	26.2%	110.6%			

【調査結果】

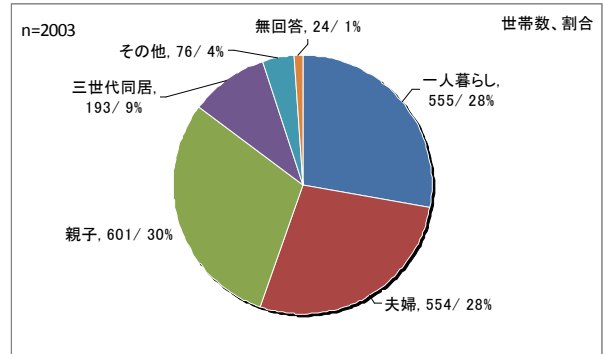
1. 世帯調査 回答率 43.9% (2,007/4,575 世帯)

(1) 属性

ア 回答者の年齢区分 (問1-1)



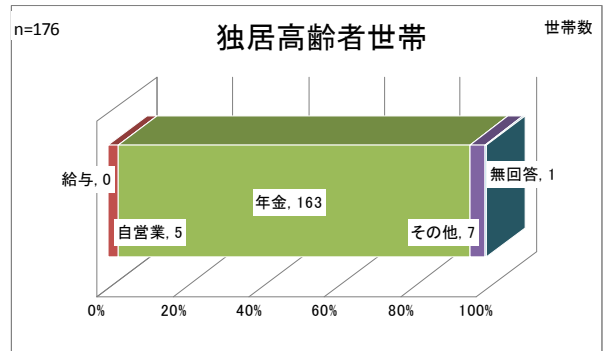
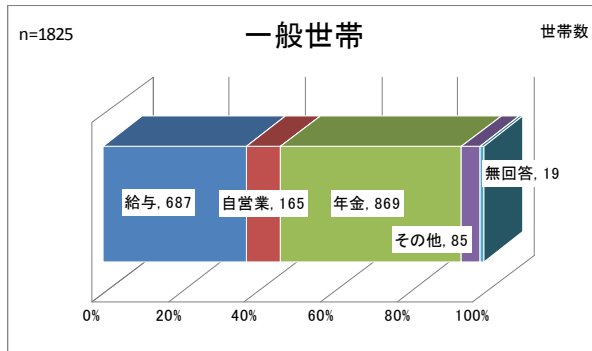
イ 回答者の家族構成 (問1-2)



ウ 主な収入 (問1-3)

回答者が高齢のため、一般世帯においても年金を主な収入に挙げる回答者が多い。独居高齢者世帯においては、ほぼ年金に頼っていることがわかる。

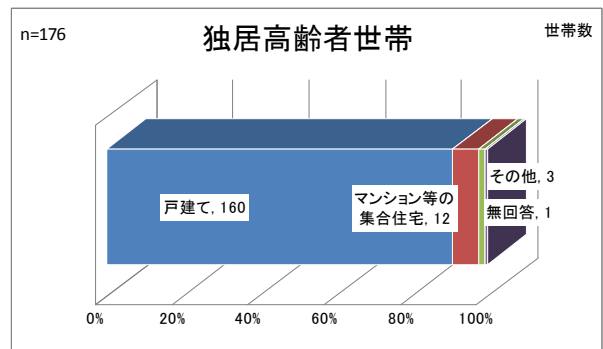
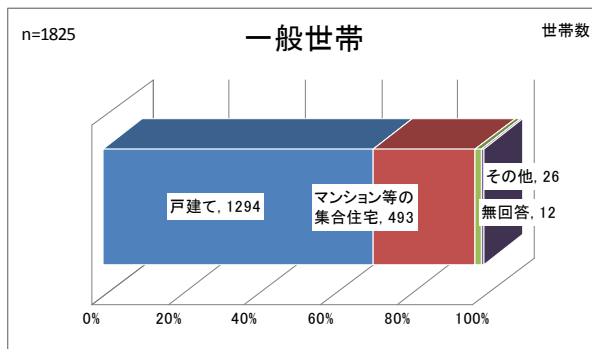
- 年金を主な収入とする一般世帯 : 869/1,825 世帯、47.6%
- 年金を主な収入とする独居高齢者世帯 : 163/176 世帯、92.6%



エ 住まいの形態 (問2-1)

一般世帯、独居高齢者世帯ともに回答者の70%以上が戸建て住宅。マンション等の集合住宅は一般世帯で3割弱。

- 一般世帯の「戸建て」 : 1,294/1,825 世帯、70.9%
- 一般世帯の「マンション等の集合住宅」 : 493/1,825 世帯、27.0%
- 独居高齢者世帯の「戸建て」 : 160/176 世帯、90.9%

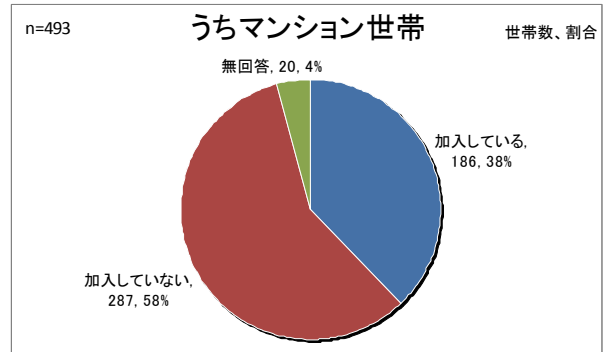
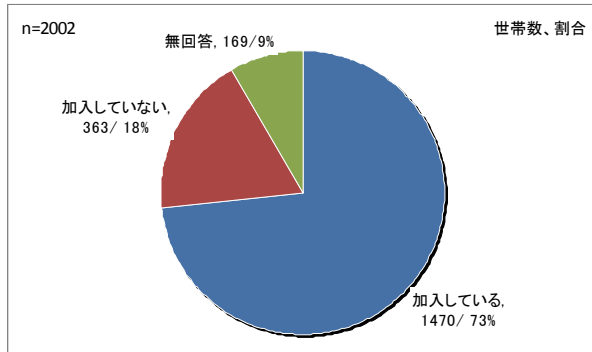


(2) コミュニティ（自治会（町内会）への加入状況、近所付き合い、マンション住民の意識等）

ア 自治会（町内会）加入状況（問5-2-1）

7割強の世帯が自治会（町内会）に加入。（一般世帯、独居高齢者世帯はほぼ同じ傾向）ただ、マンション世帯を見ると加入率は4割弱にとどまる。

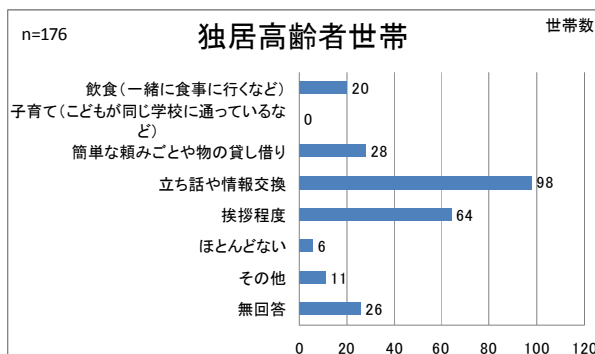
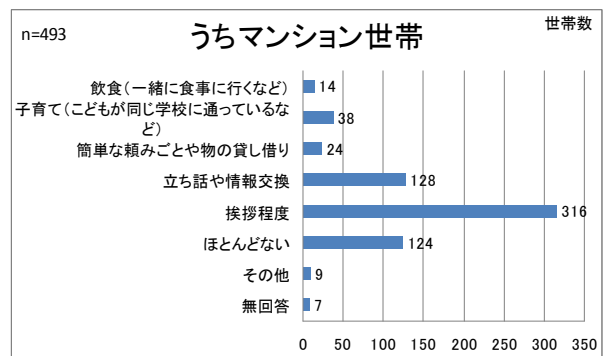
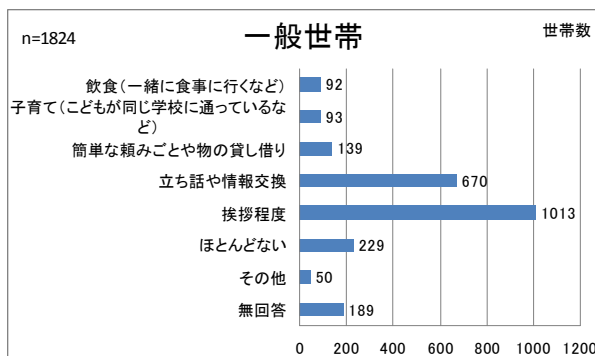
- ・加入している世帯 : 1,470/2,002世帯、73.4%
（うちマンション世帯 : 186/493世帯、37.7%）



イ 日常の近所付き合い（問5-1-1、複数回答）

一般世帯、独居高齢者世帯ともに、「立ち話や情報交換」、「挨拶程度」が多い。一般世帯には近所付き合いが「ほとんどない」と答えた人が一定数存在。

- ・「ほとんどない」の一般世帯 : 229/1,824世帯、12.6%
（うちマンション世帯 : 124/493世帯、25.2%）



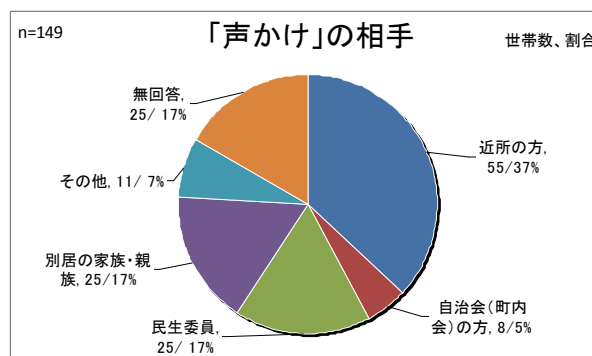
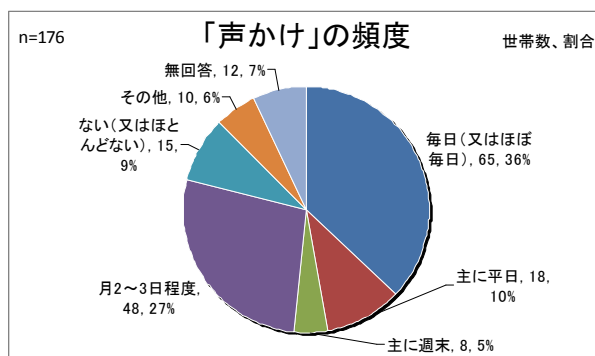
ウ 「声かけ」の頻度・相手（問3-2）

独居高齢者世帯に対する「声かけ」の頻度は、「毎日（又はほぼ毎日）」が最も多く、次いで「月2～3日程度」。

- ・毎日（又はほぼ毎日）：65/176世帯、36.9%
- ・月2～3日程度：48/176世帯、27.3%

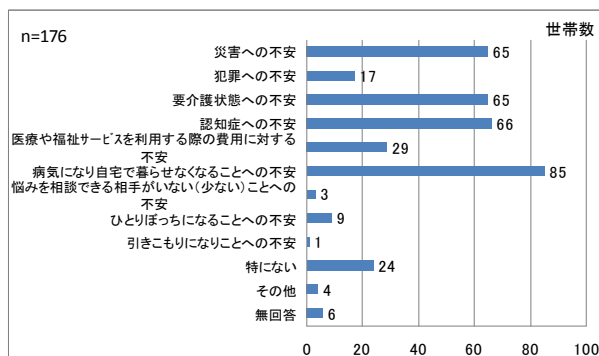
主な相手は「近所の方」が最も多く、次いで「別居の親族」「民生委員」が同じ割合。

- ・近所の方：55/149世帯、36.9%
- ・別居の家族・親族：25/149世帯、16.8%
- ・民生委員：25/149世帯、16.8%



エ 独居高齢者の将来への不安（問7-2、3つまで）

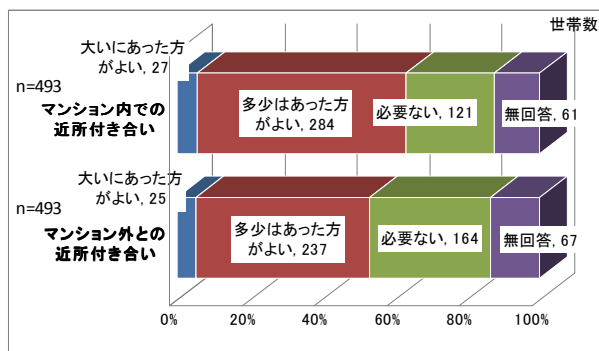
健康上の不安、災害への不安が多く、人間関係などの不安は少ない。



オ マンション世帯の意識（マンション内での付き合いのあり方（問5-1-4）、マンション外の近隣住民との付き合いのあり方（問5-2-3））

いずれも「多少あった方がよい」が最も多い。ただ、「必要ない」という回答も少ない。

- ・マンション内での付き合いが「多少はあった方がよい」：284/493世帯、57.6%
- ・マンション内での付き合いが「必要ない」：121/493世帯、24.5%
- ・マンション外の近隣住民との付き合いが「多少はあった方がよい」：237/493世帯、48.1%
- ・マンション外の近隣住民との付き合いが「必要ない」：164/493世帯、33.3%

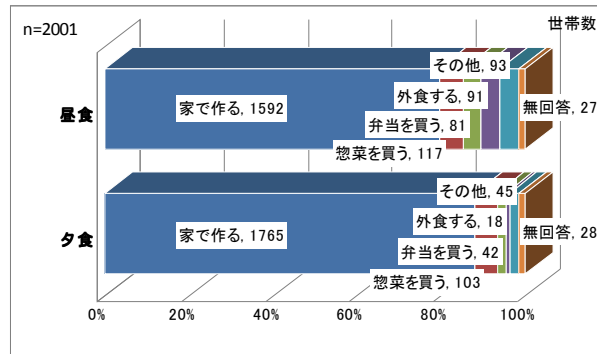


(3) 居住環境 (買い物、交通、居住地評価等)

ア 昼食・夕食の準備について (問4-1-3、4-1-4)

いずれも、「家で作る」という回答が8割～9割近くを占める。若干、夕食の方が惣菜・弁当の購入や外食が少ない。

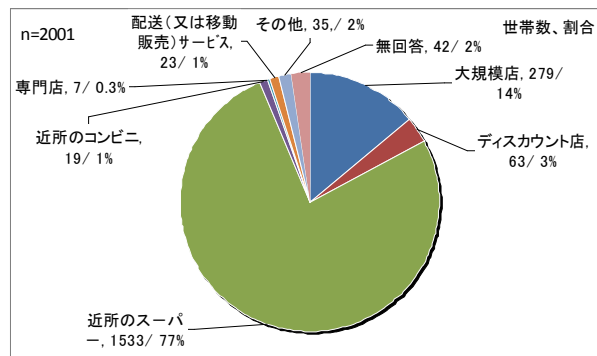
- ・昼食を家で作る：1,592/2,001世帯、79.6%
- ・夕食を家で作る：1,765/2,001世帯、88.2%



イ 日常の買い物先 (問4-1-6)

「近所のスーパー」が77%と最も多い。「大規模店」は14%を占めた。

- ・近所のスーパー：1,533/2,001世帯、76.6%
- ・大規模店：279/2,001世帯、13.9%



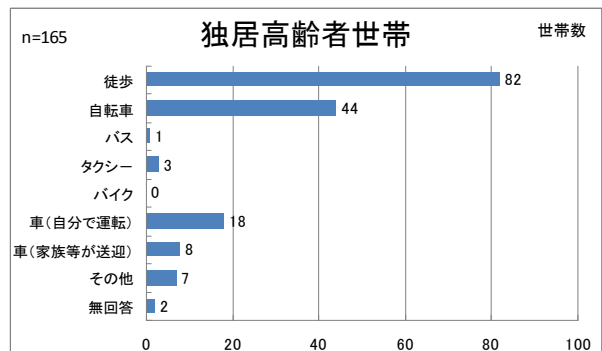
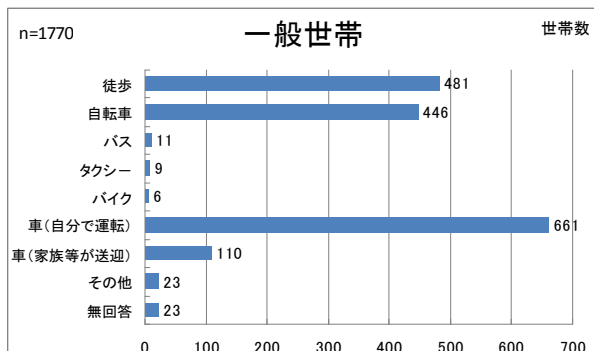
ウ 買い物に使う主な交通手段 (問4-1-6)

一般世帯の場合「車(自分で運転)」が最も多く、次いで「徒歩」「自転車」の順。

- ・車(自分で運転)：661/1,770世帯、37.3%
- ・徒歩：481/1,770世帯、27.2%
- ・自転車：446/1,770世帯、25.2%

独居高齢者世帯は「徒歩」が最も多く、次いで「自転車」「車(自分で運転)」の順。

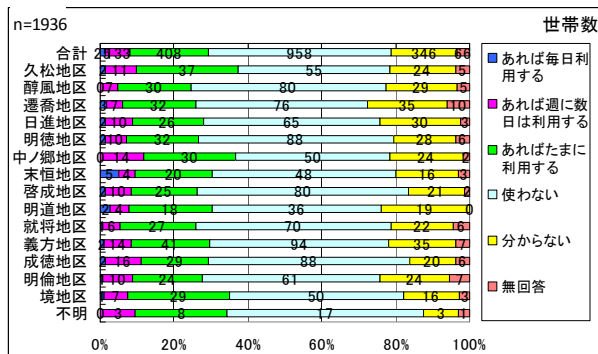
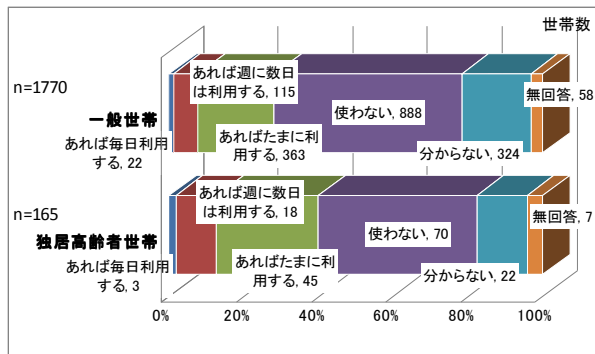
- ・徒歩：82/165世帯、49.7%
- ・自転車：44/165世帯、26.7%
- ・車(自分で運転)：18/165世帯、10.9%



エ 配送（又は移動販売）サービスの利用意向（問4-1-6）

いずれも「使わない」という回答が最も多く、次いで「あればたまに利用する」の順。全体的には積極的な利用意向とは言えない。

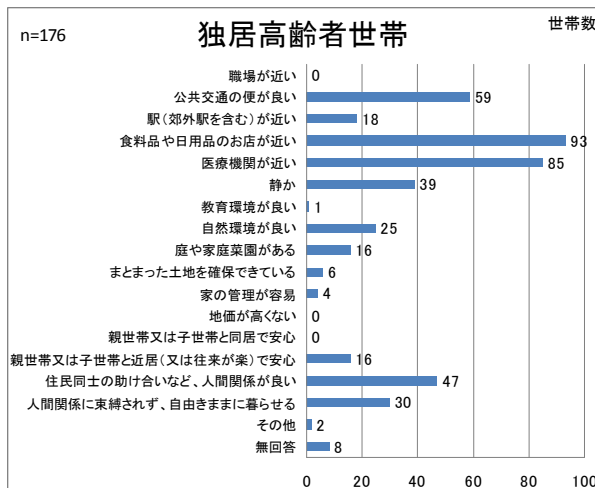
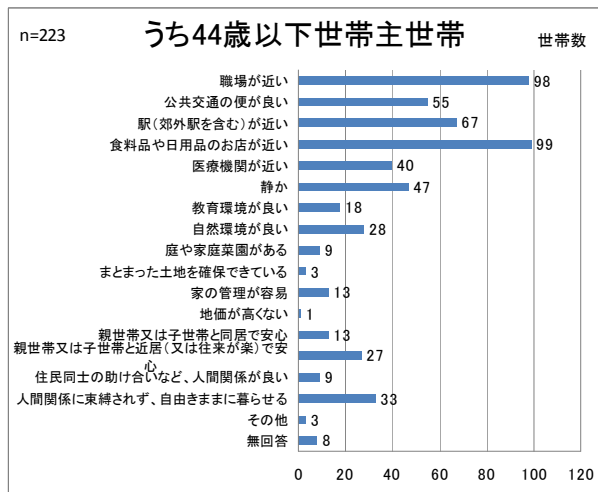
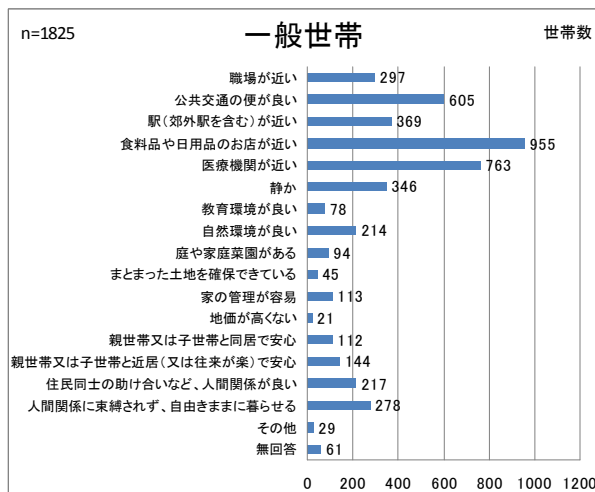
- ・一般世帯の「使わない」 : 888/1,770 世帯、50.2%
- ・一般世帯の「あればたまに利用する」 : 363/1,770 世帯、20.5%
- ・独居高齢者世帯の「使わない」 : 70/165 世帯、42.4%
- ・独居高齢者世帯の「あればたまに利用する」 : 45/165 世帯、27.3%



オ 現住地に対する評価（問2-4、3つまで）

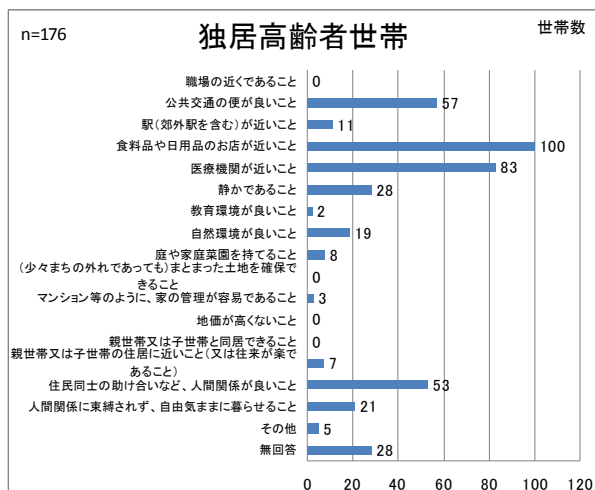
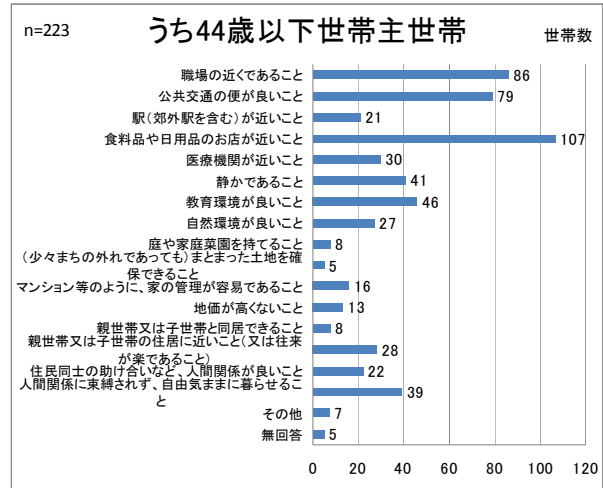
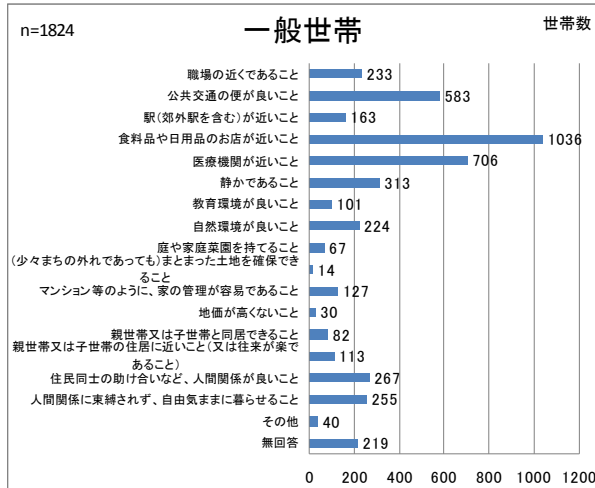
一般世帯と独居高齢者世帯ともに、買い物、医療、交通の利便性を選んでおり、これらが居住地としてのまちなかの特徴と考えられる。

一般世帯のうち比較的若い世帯主の世帯では、買い物の利便性に加え、職場や駅（郊外駅を含む）への近接性が評価されている。



カ 居住環境として優先する条件（問6-2、3つまで）

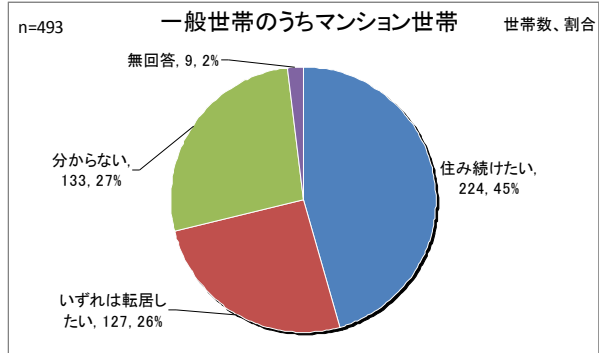
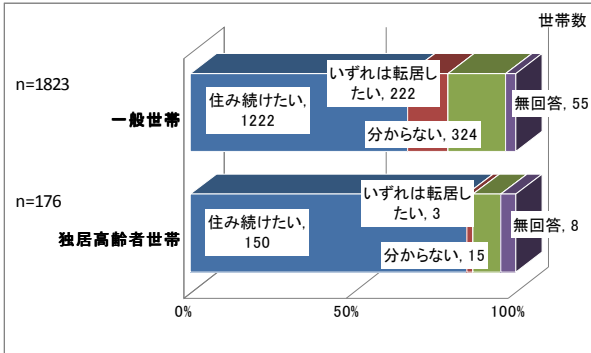
一般世帯、独居高齢者世帯ともに、買い物、医療、交通の利便性が重視されている。
 一般世帯のうち比較的若い世代主の世帯では、買い物、交通の利便性に加え、職場への近接性や教育環境などが重視されている。
 独居高齢者世帯は良好な人間関係も重視している。



キ 今後の居住意向（問6-1）

「住み続けたい」という意向が、一般世帯、独居高齢者世帯ともに多い。

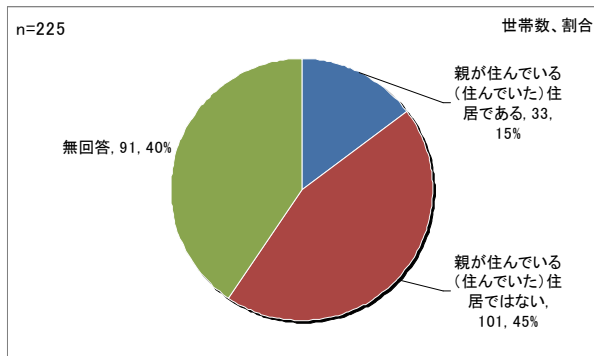
- ・一般世帯の「住み続けたい」 : 1,222/1,823世帯、67.0%
 (うちマンション世帯 : 224/493世帯 45.4%)
- ・一般世帯の「分からない」 : 324/1,823世帯、17.8%
 (うちマンション世帯 : 133/493世帯 27.0%)
- ・一般世帯の「いずれは転居したい」 : 222/1,823世帯、12.2%
 (うちマンション世帯 : 127/493世帯 25.8%)
- ・独居高齢者世帯の「住み続けたい」 : 150/176世帯、85.2%



ク 転居意向者の転居先（問6-1）

半数近くが「親が住んでいる（住んでいた）住居ではない」との回答。

- ・親が住んでいる（住んでいた）住居ではない : 102/226世帯、45.1%
- ・親が住んでいる（住んでいた）住居である : 33/226世帯、14.6%

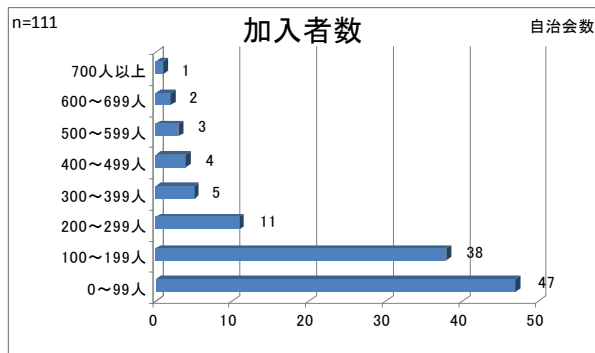
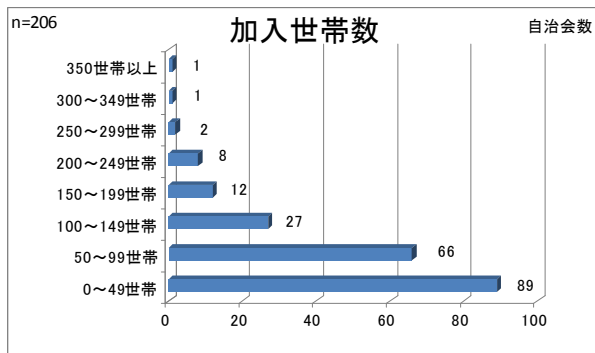


2. 自治会（町内会）調査 回答率 75.5% (209/277 自治会（町内会）)

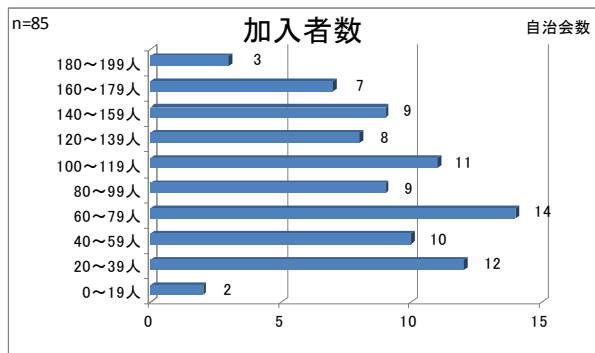
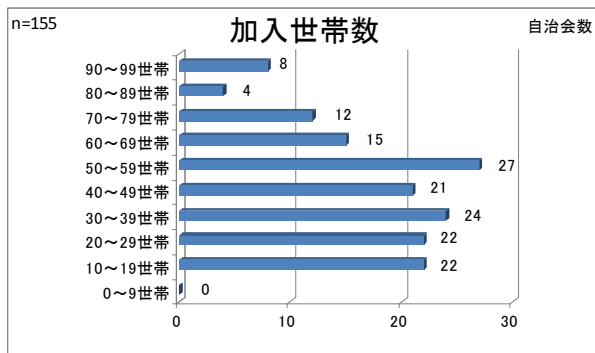
(1) コミュニティ（自治会（町内会）の状況、防災、交流基盤、マンションとの関わり等）

ア 自治会（町内会）加入世帯数、加入者数（問1-1）

比較的小規模な自治会（町内会）が多い。
 ・加入世帯数 50 世帯未満：89/206 自治会、43.2%
 ・加入者数 100 人未満：47/111 自治会、42.3%

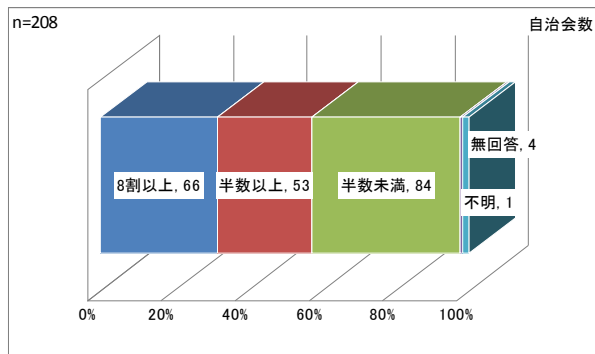


※加入世帯数 100 世帯未満、加入者数 200 人未満の自治会（町内会）の内訳



イ 自治会（町内会）への参加割合（問1-2）

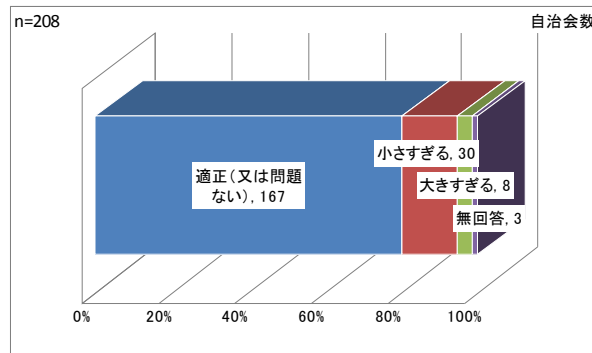
総会に加入者の「8割以上」が参加する自治会（町内会）は約3割。4割強の自治会（町内会）は加入者の総会への参加が「半数未満」。
 ・「8割以上」が参加：66/208 自治会（町内会）、31.7%
 ・「半数未満」が参加：84/208 自治会（町内会）、40.4%



ウ 自治会（町内会）規模（問1-3）

自治会（町内会）の加入世帯、人数などについて適正と感じている自治会（町内会）長が多い。

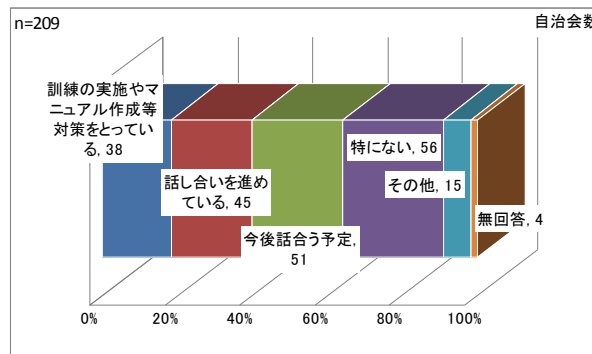
- ・適正（又は問題ない）：167/208 自治会（町内会）、80.3%
- ・小さすぎる：30/208 自治会（町内会）、14.4%



エ 地震等大規模災害への対策や話し合い（問2-1）

現在対策をとっている自治会（町内会）と、話し合いを進めている、将来に話し合いを予定している自治会（町内会）が約6割。

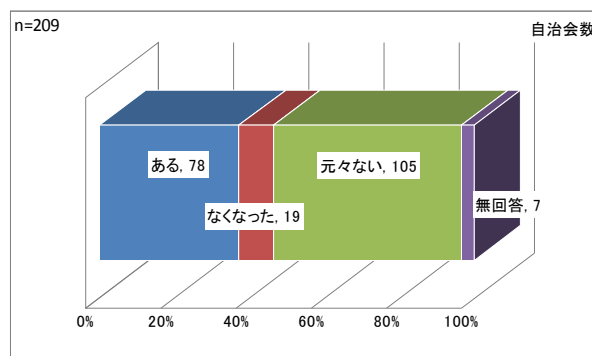
- ・訓練の実施やマニュアル作成等対策をとっている：38/209 自治会（町内会）、18.2%
- ・話し合いを進めている：45/209 自治会（町内会）、21.5%
- ・今後話し合う予定：51/209 自治会（町内会）、24.4%



オ 固有の文化的遺産（伝統芸能、祭など）の有無（問4-1）

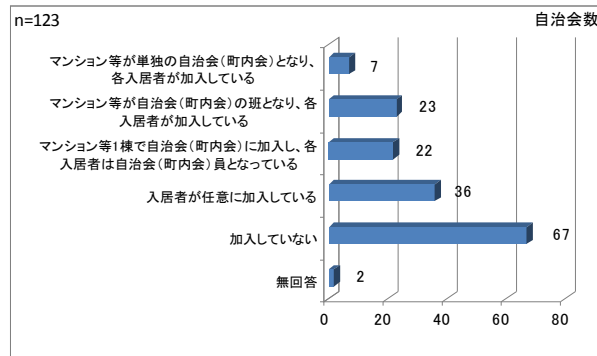
「元々ない」自治会（町内会）が半数以上。

- ・元々ない：105/209 自治会（町内会）、50.2%
- ・ある：78/209 自治会（町内会）、37.3%
- ・なくなった：19/209 自治会（町内会）、9.1%



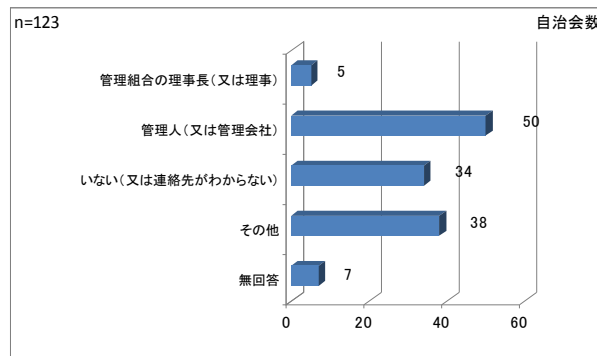
カ マンション世帯の自治会（町内会）加入状況（問4-4、複数回答）

「加入していない」が最も多く、次いで「入居者が任意に加入している」場合が多い。



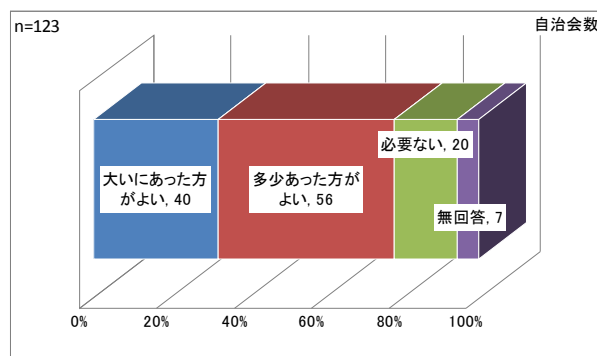
キ マンション等における地域の自治会（町内会）との連絡窓口（問4-5、複数回答）

「管理人（又は管理会社）」が窓口となるケースが最も多い。



ク 地域から見たマンション世帯との交流のあり方（問4-6）

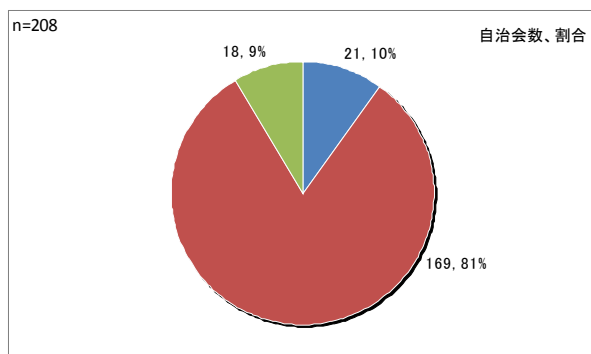
「多少あった方がよい」「大いにあった方がよい」との意見が8割近くある。
(96/123 自治会（町内会）、78.0%)



(2) 居住環境 (交通、買い物、医療、空き家等)

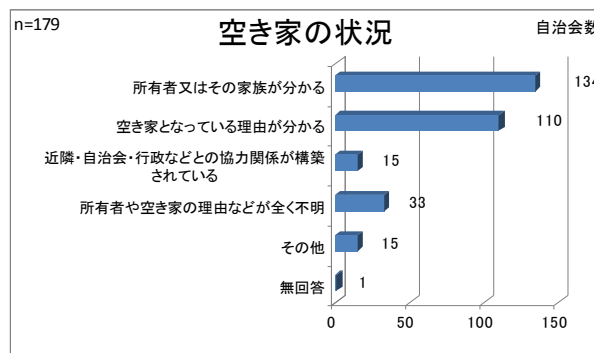
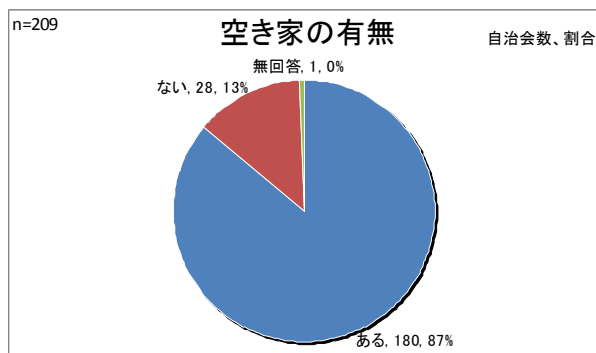
ア 交通・買い物・通院等に関する、自治会 (町内会) 内での話し合い (問3-3)

「ない」と答えた自治会 (町内会) が8割強。(169/208自治会 (町内会)、81.3%)



イ 空き家の有無・状況 (問2-2、状況については複数回答)

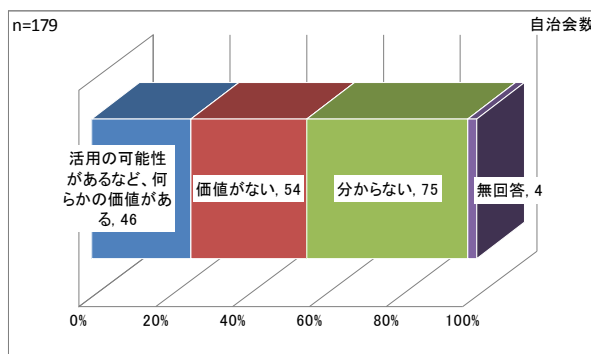
「ある」と答えた自治会 (町内会) は9割弱。(180/209自治会 (町内会)、86.1%) ある程度、所有者や空き家になった理由などが把握されている。



ウ 空き家に対する評価 (問2-2)

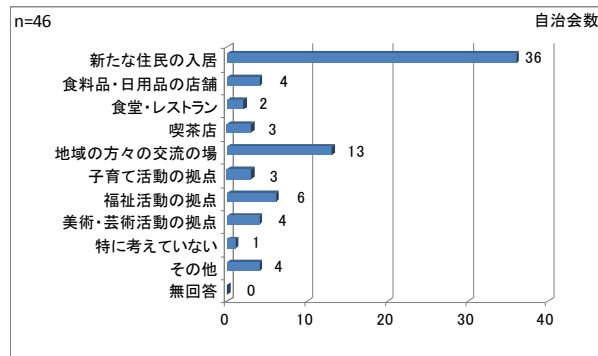
空き家の価値については「分からない」とする回答が多く、次に「価値がない」との回答。

- ・分からない：75/179自治会 (町内会)、41.9%
- ・価値がない：54/179自治会 (町内会)、30.2%
- ・価値がある：46/179自治会 (町内会)、25.7%



エ 空き家の活用方法（問2-2、複数回答）

建物として活用できる場合の活用方法としては、「新たな住民の入居」への期待が高く、次いで「地域の方々の交流の場」への期待が高い。



解体して土地を再利用できる場合の活用方法としては、「特に考えていない」が最も多く、次いで「隣家への売却」、「駐車場」が多い。

